

発行日：2013年1月15日

発行：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

新年のご挨拶

謹賀新年



総長 福澤 正洋

平成 25 年の新春、明けましておめでとうございます。皆様方、良きお年をお迎えのことと存じます。常日頃は医療連携にご協力を頂き御礼を申し上げますとともに本年も宜しくお願い申し上げます。昨年は世界経済の不況、政治の混迷など暗い話題がありましたが、これからの 1 年が皆様方にとって、日本にとって、そして広く世界にとっても安定した平和と繁栄の年になることを心より祈りたいと思います。

当センターは開設して 30 年余りが経過しましたので、当センターを退院した多くの患児は継続的な地域の医療支援が必要であり、そのためには地域の先生方と密接な連携体制を取り、患児の成長発達を支援しなければなりません。平成 23 年 10 月より地域医療連携室の強化を図っており、FAX による初診予約受付、セカンドオピニオン外来、小児がん相談窓口を開設するとともに、地域医療機関の皆様と顔の見える連携充実のため月 1 回「イブニングセミナー」を開始しました。また病診連携充実のため地域医療機関登録制度を導入し、これまで約 280 施設よりの登録申請がありました。本年も患者さんが安心して地域医療機関を受診し、在宅医療を継続できる体制に勤めて参りたいと存じますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



新年あけましておめでとうございます。平素は医療連携にご協力いただき心より感謝申し上げます。

さて、私ども看護職員は「親と子のきずなを大切にし心のこもった看護を提供する」という理念のもとに、患者さんやご家族の思いに寄り添った看護を提供できるように取り組んでおります。患者さんが安心してかつ主体的に治療や療養生活に臨めるように、さらに、発達レベルなども鑑み、個々の患者さんのニーズに応じた日常生活援助を行っております。また、現在、母性看護・小児看護専門看護師と皮膚・排泄ケア、感染管理、新生児集中ケアの認定看護師が病棟および外来で活動し、それぞれの分野で専門とする看護ケアの相談に対応しております。

看護職員は、高度専門医療と家族志向の看護を提供するために必要な知識と熟練した技術をもって看護ケアが提供できるように、院内教育プログラムを計画実践し、継続教育や研修で研鑽しております。今後は、さらに病診連携を推進し、看護活動を通して相互に理解を深めていきたいと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



看護部長 宇藤 裕子

麻酔について

年間およそ 3700 例の麻酔科管理の麻酔症例があります。小児と妊婦さん（産科）が対象です。そのうちの 3100 例が小児で、体重 600g の小さな未熟児の赤ちゃんから、新生児、乳児、小児全般が対象です。ほとんどが全身麻酔によって行われています。

新生児症例は年間 100 例を超え、食道閉鎖、小腸閉鎖などの消化管閉鎖が多いですが、先天性横隔膜ヘルニアなどの重症例もあります。未熟児で最も多いのは動脈管結紮術です。年齢層別にみると手術数が最も多いのが、1 歳未満の乳児で年間 600 例ほどです。多いものには単径ヘルニアや口唇口蓋裂、水頭症、心室中隔欠損などがあります。次いで 1 歳児

の手術が多く 400 例ほどです。これ以降、年齢が大きくなるほど、症例数が少なくなる傾向があります。

心臓血管外科は開心術 120 例、非開心術 60 例を行っています。

麻酔時間 1 時間程度の体表手術、鼓膜チュービングなどに対して年間 400 例ほどの日帰り手術も行っています。

産科では、帝王切開術が 80% を超え、そのうちの約半数が緊急帝王切開です。最近では、双胎間輸血症候群 (TTTS) に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術 (FLP) の数が増えてきています。産科的適応のある患者さんと希望者には無痛分娩も行っています。

(麻酔集中治療科主任部長 木内 恵子)

小児集中治療室 (PICU)

小児集中治療室 (PICU: pediatric intensive care unit) とは、生命の危機に晒された小児を集約して診療する部門です。命を守る「最後の砦」といえます。まだ発展途上の分野で、全国的には PICU 医は不足していますが、当 PICU は 7 名の専属医師が交代に勤務しており、専属医が 24 時間 365 日 PICU をカバーしている数少ない PICU の一つです。当 PICU の入室患者は、人工呼吸患者が全体の約 75% に上りますが、病院死亡率は十分低い 4% 程度を維持しています。ECMO (extracardiac membrane oxygenation) もここ 2 年間で 9 例経験し、うち 4 例が無事退院しました。

これまでは当センターの小児病床数が約 200 床に対し PICU 病床数が 8 床しかなかったために、当センターで心臓手術や小児外科手術を受けた患者さんの術後管理を主な役割とし、周辺地域の重篤患者の受け入れは年間 20 例程度に限定されていました。しかし、2014 年に PICU 病床数が現在の 8 床から 12 床に増加し、HCU も新設されることになりました。病床数が増えるので、これまで収容できなかった、他院で発生した重篤な小児患者が受け入れられるようになります。これからは、これまでの役割であった「病院最後の砦」から、「周辺地域の最後の砦」になっていきたいと思っています。

(麻酔集中治療科副部長 竹内 宗之)



集中治療科医とスタッフ



麻酔科医師

麻酔科外来

麻酔科外来では術前診察を行っています。入院直前（手術の前日または前々日）に来られる方が多いですが、麻酔科的な問題のある症例では、数日または、数週間前の受診をお願いしています。年間、延 3200 人の患者さんが訪れます。平日の毎日、9:30 から妊婦の診察、10:00 から小児の診察を行っています。小児の場合には、親（保護者）と患児と一緒に来ていただきます。重症で入室できない患者さんや保護者が午前中に来院できない人を除いて大部分の患者さんに来ていただいています。小児患者さんには待ち時間があれば、待合

室で手術室の説明のビデオを見ていただきます。診察室では、カルテ参照による病状の把握、手術・麻酔に関する既往歴の聴取、診察、麻酔方法の説明、手術当日の絶飲食の指示などを行います。マスク導入を希望する患児には匂い付マスク（イチゴ、ブドウ、サクランボ）を選んでもらいます。お話をすることで、本人とご家族の麻酔に対する不安を軽減する役目も果たしています。

（麻酔集中治療科主任部長 木内 恵子）

PICU 日勤医の一日

8:00

出勤 **まずは、看護師と笑顔であいさつ ▶▶▶ 重要！**
患者の顔色や呼吸パターン、末梢循環確認、患者のカルテに目を通す

8:15

朝の申し送り 治療方針の決定
主科、ICU 医師全員、常に 30 人以上が集まる

9:00

検査、栄養や薬剤の変更指示。合間に、患者の体重測定、Xp 撮影、気管内吸引に協力

小児ではチューブ挿入長の管理が難しく、首の角度や、少しの体動で計画外抜去や片側挿管になる。

11:00

ICU カンファレンス・家族説明
長期的方針の確認、短期的方針の詳細を決定
面会中の家族に病状説明

家族にできるだけ正確に情報を伝えつつ、家族の不要な不安をとる。

15:00

術後患者の入室 / 担当患者のカルテ記載
人工呼吸器の設定、たくさんの指示出し、麻酔科医からの申し送り、採血など指示が終わったら、担当患者のカルテ（電子カルテ）を書く

夜から勤務する当直医にわかりやすく、臓器別にまとめていく

16:00

心臓外科術前カンファレンス<月水金>

17:00

長期患者や胎児診断症例の主科とのカンファレンス<随時>

主科、ICU、OR 麻酔科、看護師、共観科などの全ての関係者が患者に対し最も適切と思われる治療やケアを考えていく

17:30

夕の申し送り、担当者へのひきつぎ

大抵は和気あいあいと進んでいくが、重症患者の管理がうまくいっていないときには、白熱した議論になることもある

19:00

病棟仕事が終了

退室した患者のサマリー作成、担当患者の病気に ついての情報・知識を集めたり、学会発表の準備

21:00

帰宅

担当が決まっている患者が長時間手術になった場合には、その患者の ICU 入室を待って当直医とともに入室を受けて帰宅するので帰宅は 12 時近くなることもある。楽しいけど、疲れる(笑)



患者の栄養状態がさまざまな病気の回復に大きく影響することが知られるようになり、栄養管理の重要性が成人はもとより、こどもでも広く認識されるようになってきました。多くの病院でNST(Nutrition Support Team)という多職種からなる医療チームが組織され、当センターでも栄養障害によりQuality of Lifeが低下している入院患者の栄養管理のためにNSTが院内のラウンドとカンファレンスを行っております。構成メンバーは川原医師（小児外科）、恵谷医師（消化器・内分泌科）、西本管理栄養士、森元管理栄養士、寺内管理栄養士、松尾外来看護師、馬場病棟看護師、宮部薬剤師、庵森薬剤師、豊田検査技師、椎木メディカルクラークの11名です。栄養管理を行うために患者の身体所見、血液検査値を参考にするとともに、間接カロリーメトリーで測定した基礎代謝熱量から、重度心身障害児や難治性消化器疾患など複雑な基礎疾患をもつ患者に適した栄養所要量を設定したり、投与法の工夫などを行っております。このような栄養管理は入院患者のみならず外来診療にも役立てており、当センターとかかりつけ医、訪問看護ステーション、在宅医療を繋げてシームレスの栄養管理を行う地域連携NSTのコンセプトを掲げて活動しております。



NST

(NST委員長 川原 央好)

基本理念

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

交通のご案内



この広報誌に関するご意見・ご要望は
FAXにて地域医療連携室にお寄せください

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

地域医療連携室

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
TEL: 0725-56-9890 (直通)・0725-56-1220 (代表)
FAX: 0725-56-7785・0725-56-5605 (初診受付専用)
<http://www.mch.pref.osaka.jp>